

2012年6月16日

福井県知事  
西川 一誠 殿

原発問題住民運動福井県連絡会  
代表委員 奥出春行、河内 猛  
佐藤正雄、多田初江  
連絡先 福井民医連 0776-27-6648  
事務局 医療生協 0776-27-2318

### 関西電力大飯原発3、4号機の再稼働の同意について強く抗議する

西川一誠福井県知事が16日、関西電力大飯原発3、4号機の再稼働に同意すると野田総理に伝えた事に対して満身の怒りをこめて抗議する。「エネルギーのほとんどを海外に頼らざるを得ない日本は当面、原発を重要な電源として安全に稼働させていくのが最も現実的な方法だ」と会見したが、3・11福島原発事故で安全神話が崩壊した以後、エネルギー政策の中で原子力発電の位置づけは激変している。原発の再稼働で背負わされるリスクの甚大さは他のエネルギーと比較にならない。そもそも福島原発事故の原因究明が、どこまでなされている認識なのか？福井県議会が福島県内全原発の廃炉の請願を全会一致で採択し、佐藤福井県知事が福島県内全原発の廃炉をめざすと決意表明した思いをどう考えたら原発再稼働が最も現実的な方法と言えるのか。

「首相の決意と十分な安全対策がある」から同意というが、そもそも福島原発事故の原因究明がなされておらず、首相が指示した「安全対策」でさえ、まともに行われていない。大飯原発3号4号機には免震重要棟がない、フィルター付きベントもない、日本海側での地震・津波の国の調査もこれからで、変動地形学の専門家から大飯原発敷地内を通る「破碎帯」と呼ばれる断層について「活断層の可能性が否定できない」との調査結果をどう説明するのか。

県の原子力安全専門委員会では、国と電力事業者、保安院のデータを追認し、最終のまとめの委員会は、一般傍聴を締め出し県民への説明もなく密室で終了した。福井県議会の全議員協議会は一般傍聴を認めず、わずか2時間で終了するなど安全性への十分な議論や県民の声が反映しているとは言えない。わたしたちが、4月下旬におおい町で行った訪問行動でおおい町民約3百人と対話し聞き取りをまとめた中でも「現状での再稼働は拙速すぎる。安全が心配」との声が半数を超えていた。今回の再稼働の同意は、およそ福井県民の意見が反映されているとは言えず、とうてい福井県民のいのちと安全を守ることにはつながらないと思われる。

わたしたちは、今後も福井県に住む住民と連帯していのちと安全を守り、安心して住み続けられる福井県を子ども達に残すため住民運動を進めていく。引き続き福井県知事に対して安全性を抜きにした現状での大飯原発3、4号機の再稼働の中止を求めていく。

以上